

【全国納税貯蓄組合連合会会長賞】

「社会への募金」

新潟市立横越中学校

三年 茅原 穂ノ花

母がセルフレジにお金を入れた。「レシートもらって」といわれ、私はレジから一枚の長いレシートをぴっと取った。母に渡す際に少し見えて気になったのが「消費税」という文字だった。消費税は、ニユースなどで八%から十%に上がったということや、百円の商品には十円の消費税がかかるということしか聞いたことがなかった。百円均一の店で買い物をする時は、百円ではなく、百十円支払うのが当たり前になっていた。このような当たり前で身近にあったのが消費税である。しかし、なぜ払っているのか、何に使われているのかまでは考えたことがなかった。そこで私は資料やインターネットで、消費税などの税金がどのように使われているのか調べてみた。

すると税金は私たちの生活の様々なことに使われているのだと分かった。ゴミの処理や医療、教育などの中のものばかりだ。中でも私が一番気になったのが、災害からの復興だ。知っている災害の中で印象的なのは「東日本大震災」だが、私はこのときまだ三歳だった。当時のことは覚えていないのでニユースや親からの話を聞いて痛烈な思いだった。ニユースで毎年三月十一日になると当時を振り返る映像が流れる。震災後の町の様子と震災前の町の様子を比べると明らかに変わり果

てていた。しかし、ニユースキャスターが現地取材に行っている映像をみると、最近は何のように戻っているところも多くなっているようだった。絶望的だった景色から希望の見える美しい景色に戻るところをみて人類の凄さに感動したという覚えがある。そんな被災地の復興にも税金が関わっていることを知ると、税金の大切さが身に染みた。東日本大震災の復興に使用するお金を集めるために、通常の所得税に上乘せする「復興特別所得税」というものがある。上乘せすると聞くと、払う税金が増えて悪いイメージを持つかもしれないが、その上乘せされた税金が、住む家を震災によってなくして困っている人や破壊された日本の景色を取り戻すために使われると思うと惜しくないのではないか。それが遠くから被災地へ送る立派なエールになることも間違いない。

税金を払うということは、人のためにもなる「社会への募金」のようなものを感じた。人は支え合って生きていく生き物であり、支え合うことによって成長できる。人のために払った税金が税金によって自分に返ってくる。人は税金によって繋がっていると思った。気付かれにくい正しい事実だ。私も、税金によって与えられた教育を感謝しながら受けたい。税金に対して正しい知識を身につけ、人に伝えたい。そうして人との繋がりを増やすきっかけとなるのが税金であってほしい。